

3-7 関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院
Geographical Survey Institute

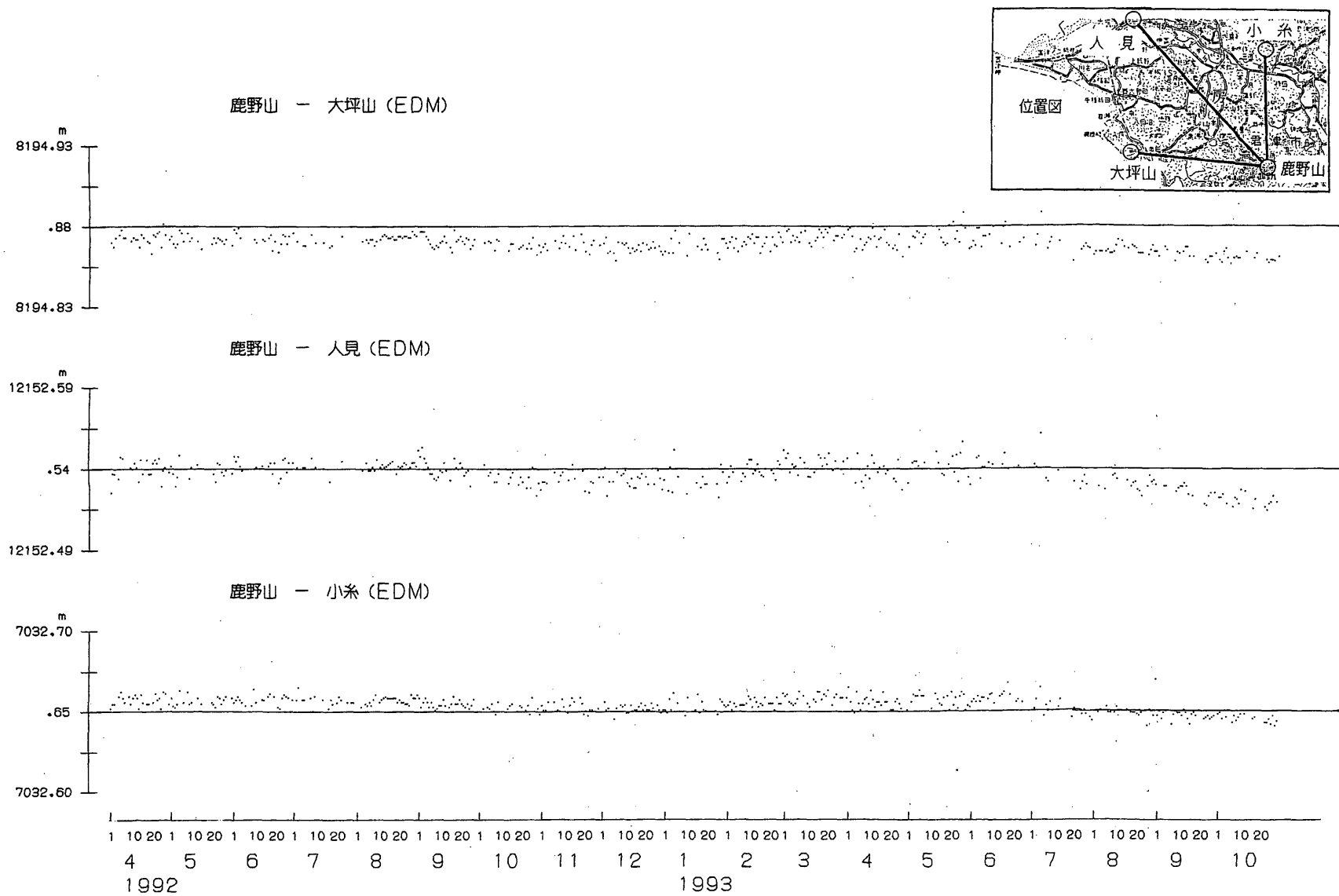
第1図は、鹿野山における辺長の連続観測の日平均値である。7月以降、各辺とも縮みが続いている。連続観測を開始して2年目であるが、昨年も同時期に縮みが見られ、年周変化とも考えられる。第2図は、観測開始以来の経年変化である。鹿野山から人見及び小糸方向が縮んでおり、一次網で得られたこの地域の長期間の水平歪と調和的である。最近、人見方向の短縮率がやや大きくなったように見える。

第3図は、高崎から三国峠を経て長岡へ至る路線沿いの上下変動である。ここ13年間、湯沢で北側が下がるステップ状の変動が見られるが、この地域には顕著な断層もなく原因はわからない。長岡及び六日町の大きな沈降は、融雪のための地下水の汲み上げによるものであろう。第4図は、今市から田島を経て会津若松に至る路線沿いの上下変動である。1980年から1984年の間は、今市側が沈降したが、以後1993年までの9年間は逆に今市側が隆起している。

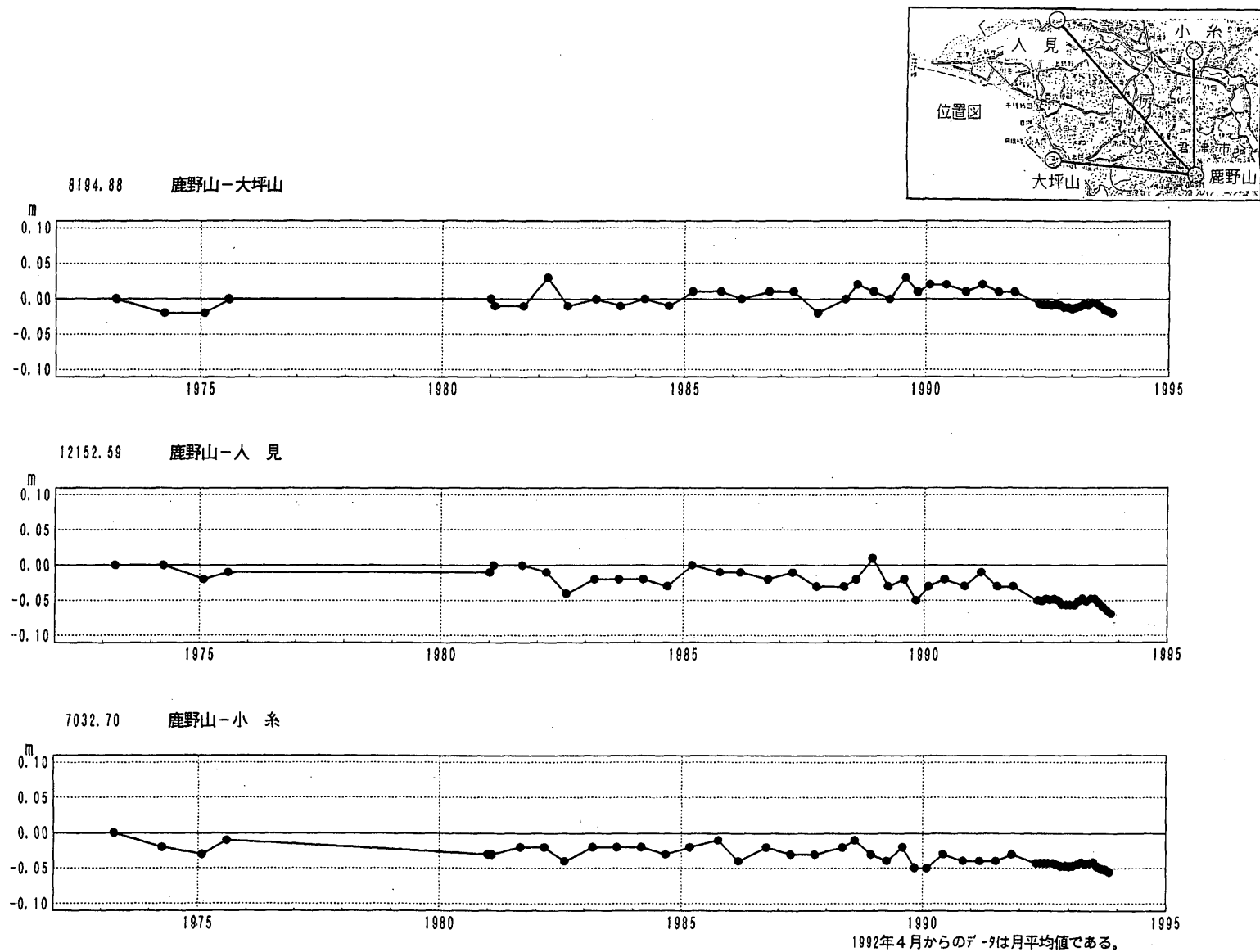
第5図は、布良、油壺、勝浦験潮場間の月平均潮位差である。最近は、目立った変動はない。

参 考 文 献

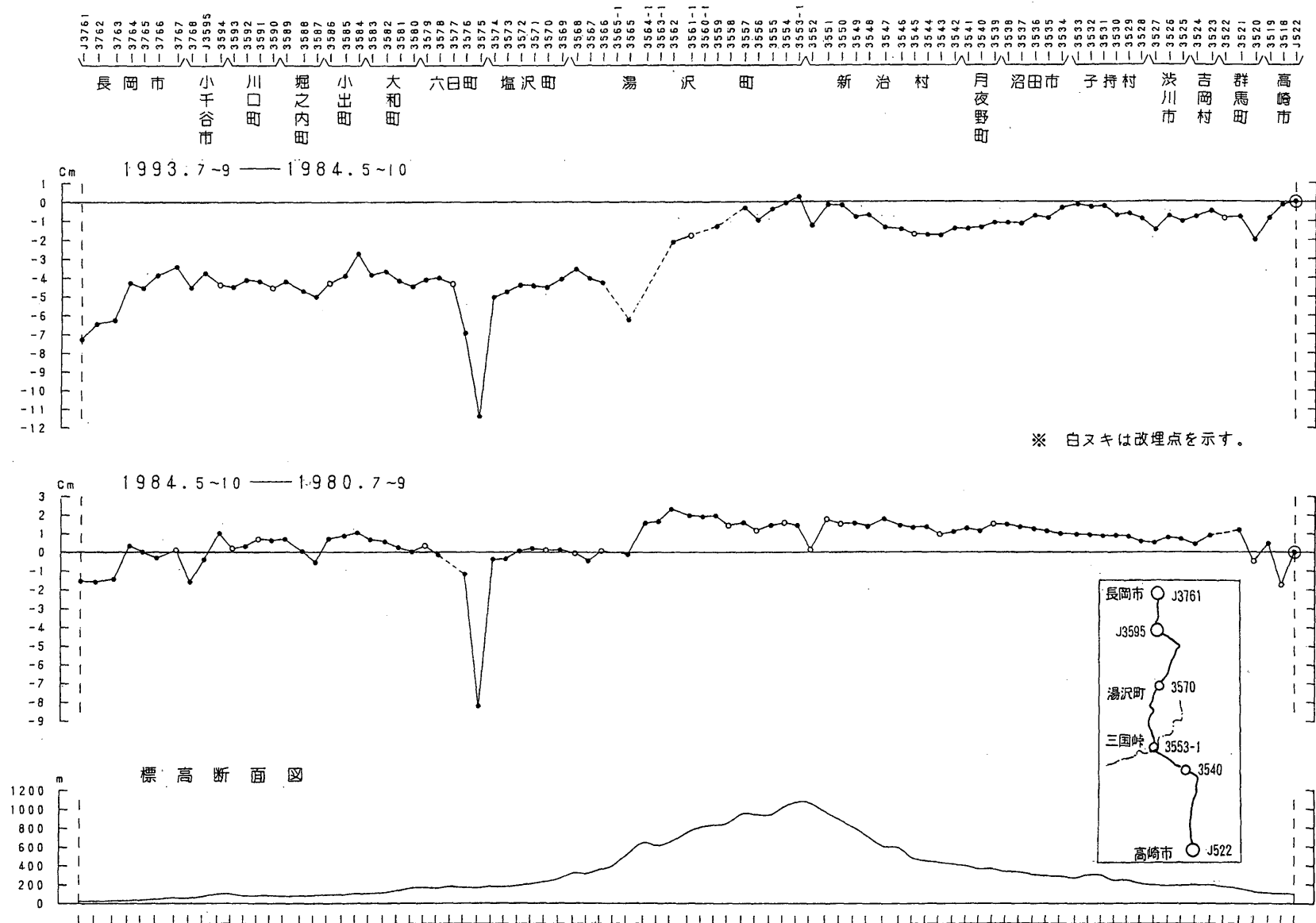
- 1) 国土地理院：北関東地方の地殻変動，**34**(1985)，127-137.
- 2) 国土地理院：関東地方の地殻変動，**48**(1992)，125-161.
- 3) 国土地理院：関東地方の地殻変動，**49**(1993)，163-168.
- 4) 国土地理院：関東地方の地殻変動，**50**(1993)，168-191.



第1図 鹿野山における距離連続観測結果
 Fig.1 Results of continuous observation of distances in Kanouzan

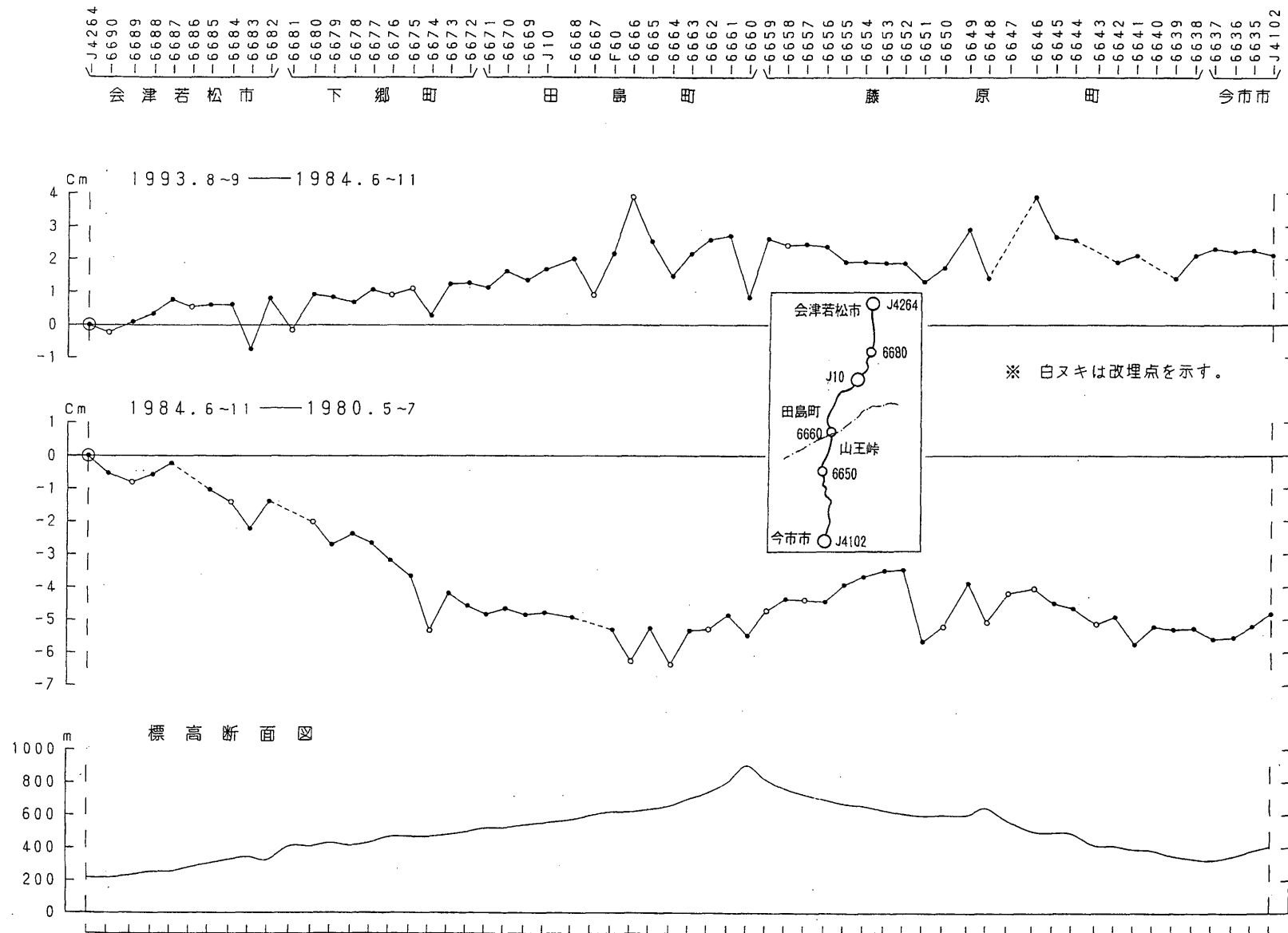


第2図 鹿野山における距離の経年変化
Fig.2 Temporal variation in distances in Kanouzan



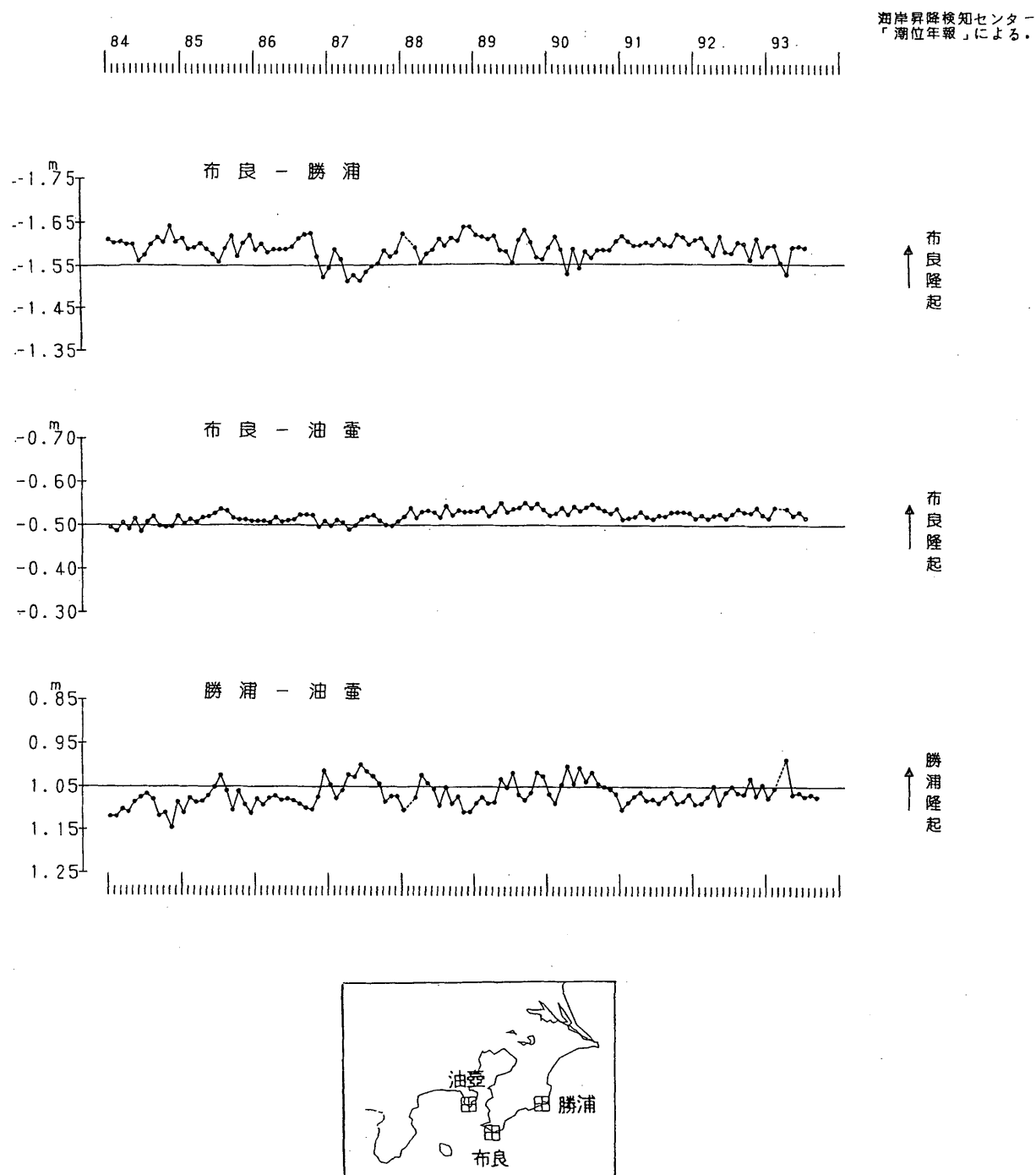
第3図 高崎～湯沢～長岡間の上下変動

Fig.3 Vertical movement along the route from Takasaki to Nagaoka via Yuzawa



第4図 今市～田島～会津若松間の上下変動

Fig.4 Vertical movement along the route from Imaichi to Aizu-Wakamatsu via Tajima



第5図 布良，油壺，勝浦験潮場間の月平均潮位差
Fig.5 Differences in monthly mean sea levels between Mera, Aburatsubo and Katsuura tide stations